



(一般社団法人) 大学女性協会仙台支部便り

「け や き」 No. 16

平成30年11月3日発行

2018年度全国総会 第7回定時会員総会に参加して

島原 洋子

このたびの総会は5月12日から14日まで静岡市の中島屋で開催された。初日は14時から支部長会（渋谷支部長出席）、18時から懇親会が約80名参集して開催された。懇親会では静岡支部の会員でもある上川陽子法務大臣が祝辞を述べられ、大臣の活躍ぶりなどを通して久しぶりにグローバルなお話を伺うことができた。会食後は「わっしょいゆーたショー」という国際的クラウン（道化師）のパフォーマンスを楽しませて頂いたのち懇親会が終了した。

2日目の総会は476名（会員参加者106名）の参加により成立。初めに本年度の逝去会員10名（菅原充子会員含む）の黙祷があり、その後、恒例により、行事報告・会計報告などの議事が進められた。午前中は来年度の総会が京都支部で5月22日～24日まで開催されるとの報告があり終了した。

昼食後は新役員の紹介の後、歴史時代小説家植松三十里さんによる公開講演会「初代文部大臣森有礼夫人―世界に羽ばたいた栄光と挫折」と題して講演が行われた。「パイオニアの女性にはおおくの苦労がある。国際社会で活躍した女性として評価したい。」などの興味ある話に聞き入っているうちに終了した。

3日目の研修日には昨夜の豪雨もおさまり、朝から快晴となった。補助椅子を使い50名程の会員が1台のバスに乗り、最初の見学場所である、植田産業Papiesミュージアムに向かった。ここでは俵の綴じ紐から開発されたという材料で作られたいろんな工芸品を見学した後、富士山のバッジを作る体験をした。昼食は「まかい牧場」で新鮮な食材で作られた料理を堪能し、その後は「白糸の滝」「富士高砂酒造」「富士本宮浅間大社」を見て、最後に「静岡県富士山世界遺産センター」を見学した。ここは昨年度富士宮市に開館したもので、すでに20万人の来館者があるという人気のある見学地である。「逆さ富士」をかたどった木組みの美しい外観だけでなく、ユニークな展示方法にも注目が集まっている。特に、館内の展示の中で逆さ富士型内の「らせん状の斜路」を上がりながら、壁に映された登山中の素晴らしい景色の映像を楽しみつつ富士登山の疑似体験ができるところである。素晴らしい眺めを楽しみながら「らせん斜路」を登っているうちに、約半世紀前に生徒達と富士登山したことが思い出された。

当時私は大学卒業後、1年間の大学助手を務めた後、昭和38年に鳴子中学校に赴任していた。学校には「こけしクラブ」があり、東京オリンピック選手団にこけしを贈ろうと盛り上がっていた。初任者の私が「全国スポーツ少年大会」に参加するため9人の生徒たちを引率し、1週間御殿場に滞在した。その滞在中に、吉田口から富士山に登ったのである。登山中の苦しさ、山頂を極めた時の眺め、広大な噴火口に吸い込まれるような体験をしたことが彷彿と脳裏を横切ったのである。

私にとって今年度の静岡県大会は有意義で楽しく思い出の多い大会となった。

平成 30 年度第 1 回交流会の報告

「声楽との出会い」：相澤富美江さんのお話

谷地森 涼子

7 月 13 日水曜日、11 時からエル・パーク仙台 特別会議室で今年度の第 1 回交流会が開催されました。最高気温 31.5 度のこの日、暑さにもめげず、92 歳の飯岡絹子さんをはじめ、10 名が出席しました。

司会の小関さんから相澤富美江さんのプロフィールが紹介されました。相澤さんは 1964 年塩釜に生まれ、宮一女、東北大学文学部美学西洋美術史専攻を経て宮城教育大学大学院教科教育専攻音楽教育専修修了、現在は声楽家、また 4 つの合唱団で指導者として活躍されておられるという異色の経歴の持ち主です。美術史から声楽への道のりについてのお話を伺いました。

私は小さいときから音楽が好きでした。幼稚園の時、オルガンで好きなメロディーに伴奏を付けて弾いていました。当時ヤマハ音楽教室の全盛期。アップライトピアノを買ってもらい、ピアノを習い始めました。小学 6 年のとき叔父にモーツァルトの弦楽セレナード「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」のレコードを買ってもらったのをきっかけに、自分でもレコード収集するようになり、「田園」、「未完成」や「新世界より」、ヴィヴァルディの「四季」などを聴いていました。山本直純、芥川也寸志・黒柳徹子の音楽番組が大好きで、公開収録にもいき、クラシックが好きになりました。

中 1 の時、音楽にすごく心を動かされる体験をし、ますます音楽が好きになっていきました。当時、担任の体育の先生に勧められて陸上部にいましたが、吹奏楽部に転部し、フルートとピッコロをやりました。高校では、室内楽部でチェロをやりました。そのころはオーケストラとピアノに興味があり、特にショパンが好きでした。作曲にも関心を持ち、和声の勉強もかじりました。高 3 の時、ピアノで音楽に進みたかったけれど、生まれつき手が小さいので断念。1 浪して東北大学文学部に入学、美学・西洋美術史を専攻。恩師の田中英道先生はミケランジェロ、レオナルド・ダ・ヴィンチの研究者でした。JAUW 全国総会仙台大会の時、たまたま中村久瑠美会長と席が隣り合わせになり、美学専攻と伺い、田中先生が先輩であることが話題になりました。卒論はバッハについて書きました。

大学 4 年の終わりに、田中先生に宮教大の音楽史の先生を紹介していただき、研究生を志望したものの断られ、がっかりしましたが、ちょうど大学院制度が始まった年で、その後、受験してみないかとの連絡があり受験、大学院に入学できました。大学院では、音楽科の 8 人の先生方の授業を一通り受講しなくてはなりません。歌うことは小さいころから嫌いだったのですが（唯一好きで歌っていたのは、高校の時に名画座で映画を見てファンになったビートルズの歌でした。）、声楽の授業も受けなくてはなりません。2 人いらした声楽の先生のうち、たまたま板橋健先生の授業を受講することになりました。受講生が 2 人だったため、90 分のうち 45 分個人レッスンを受けることができました。声楽が全く初めての私は教えやすかったのか、先生に気に入っていただき、2 年目の授業の最後には音楽科の演奏会の中で、発表をさせてもらうことになりました。それまで嫌いだった歌がおもしろくなり、大学院 3 年の後も何年か、板橋先生のもとで研究生として、ドイツ歌曲とオペラ・アリアを学び、また仙台バッハアカデミーのマスタークラスで、チューリッヒ音大のカトリン・グラーフ氏などの先生方の指導を受け研鑽を積みました。板橋先生には今でもいろいろとアドバイスを頂いています。

と、ここまでお話を聞いた会員は「よくここまでご両親が自由にさせてくれたわね。偉いわね。早く結婚しなさいとプレッシャー与えなかったのねえ」と口々に感心。

ご両親は塩釜の観光栈橋の近くで「船舶食糧」の会社を経営、3代目。主な取引先は仙台港に入港する外国航路の大型貨物船・タンカー船で、入港前に船の司厨長から乗組員の食料や日用品の一括注文を受け、品物を調達して納めるという仕事。大きな冷蔵室、冷凍室も所有していました。3人姉妹の末妹が後を継ぐことになっておりましたが、結婚して新潟に。東日本大震災で、一階天井まで浸水したのを機に、お父さんが廃業を決めたのだそうです。次妹はローマで日本食レストランのスタッフとして勤務しています。

2009年冬、次妹とウィーンのシューベルトゆかりの地などを旅行した時の写真、2010年冬、ウィーンで声楽のレッスンを受けるため1か月アパートを借りて住んだときの写真、バッハの最後の任地ライプツィヒを訪れた時の写真を見せていただく。

これからも勉強を続けたいとの相澤さんのゆったりしたお話に、次の会にお急ぎの長田さんもつつい引きずり込まれて「誰にも体験できない」と思わず一言。

浦田さんは「まるで朝ドラのヒロインになるようなお話の展開」とは言い得て妙、ぴったりの表現でした。

ときの経つのを忘れるほど相澤さんのお話が興味深く、もっといろいろ質問したいところでした。最初から目標を定めて進んできた人に後れを取ってはならないと、今なお学習意欲旺盛な相澤さんに、みんなで心からの拍手を送りました。



シューベルトの生家（ウィーン）



シューベルトの生家 内部



ウィーン楽友協会前にて



聖トマス教会（ライプツィヒ）



聖トマス教会内のバッハのお墓

【ディズニー・アート展】鑑賞会の報告

《いのちを吹き込む魔法》

浦田 麻弥

世界中の誰もが愛してやまないディズニー・アニメ。1928 年ミッキーマウスの誕生から日本未公開の最新作まで、約 90 年分の作品のオリジナル原画展覧会が、宮城県美術館で開催されました。

期間中 9 月 5 日（水）には学芸員による講話付鑑賞会が行われ、集まった参加者 6 名と共に、約 500 点のほとんどが日本初上陸という貴重な原画の数々を鑑賞して参りました。



先に展示場入口前ロビーにて、学芸員の赤間和美氏より、この展覧会の構成についてご説明を頂きました。

その中で私たちが改めて驚いた事は、『白雪姫』『ピノキオ』『ファンタジア』『ダンボ』『バンビ』といった作品が全て、戦前・戦時中に誕生していた事でした。この期間こそが、この展覧会のコンセプトでもある《いのちが吹き込まれた瞬間》であり、「魔法のはじまり」でした。その「魔法」とはどんなものなのか、私たちは期待を胸に展示場内へと進みました。

「動き出すいのち」と題された、一本の鉛筆描きのミッキーマウス誕生の原画。戦後の作品『ふしぎの国のアリス』『眠れる森の美女』等の原画は表現が多様化され、21 世紀を目前とし「新たな次元へ」突入して生まれた『美女と野獣』『ライオン・キング』等はデジタル、ミュージカル化されました。そして「つながるいのち」と題された『アナと雪の女王』『モアナと伝説の海』等では、自分の意志で未来を切り開いていく新しい主人公が誕生しました。世界中の人々に愛と希望を与え続けるその「魔法」は、クリエイターたちの「あくなき研究と開発の日々」から誕生したものであったのです。

その中でも私が一番心を打たれ感動したものは、一枚の大きな写真パネルでした。大勢の若きクリエイターたちに囲まれた笑顔のウォルト・ディズニー。そこにはこう書かれていました。

『私たちのやり方に特別な秘訣はありません。前に進み続け、ドアを開き、新たな事をやるだけです。・・・内なる好奇心に従って』

これこそが「ディズニーの魔法」なのだと思います。



新入会員の紹介

この度、宮原育子先生を新会員としてお迎えできましたこと、本当に嬉しく思います。宮原先生は、宮城学院女子大学の現代ビジネス学部で教鞭をとられていらっしゃいます。地理学、観光学がご専門です。穏やかで温かなお人柄でいつもにこやか、これから仙台支部で一緒させていただけることがとても楽しみです。

松山 裕美子

<訂正>

前号で、新入会員紹介の記事で、浦田麻弥さんの紹介執筆者を松山裕美子さんと記しましたが、松山寿美子さんの間違いでした。訂正して、お詫びします。

* 今後の予定 *

公開講演会

「地域社会と女性の活躍」

講師：宮原 育子 会員

日時：11月8日(木) 13:30～15:00

場所：エル・パーク仙台 セミナーホール(141ビル 5階)



(一般社団法人) 大学女性協会仙台支部便り

「け や き」No. 17

平成31年4月8日発行

<公開講演会の報告>

氏家 薫

「地域社会と女性の活躍」と題して、2018年11月18日、エル・パーク仙台セミナーホールで、宮原育子会員（宮城学院女子大学現代ビジネス学部教授）に講師を担当していただき、公開講演会を開催しました。

6月に新会員としてお迎えした宮原育子さんに、大変ご多忙でいらっしゃるなか、ご講演をお願いすることができました。渋谷由美子支部長のご挨拶、司会進行は中屋紀子さんで開会されました。

宮原さんのお話は自己紹介から始まり、ご自宅のある山形県高畠町の紹介、伊達藩と高畠置賜地方の繋がり、現在教鞭をとられる宮城学院女子大学の現代ビジネス学部の目指すものと活動、さらには東北に於ける隣県交流や地域を繋ぐ町興しの動き、そして震災後に観光調査で訪ねられた中央アジアのキルギスの現状や女性の暮らし振りを、写真と共に詳しく紹介して下さいました。実に幅広く内容の深いご講演でした。

宮原さんのお声はソフトで、お話の展開も滑らか。大変分かり易くて、すんなりと頭に入ってくるので、楽しく伺っているうちにアツという間に一時間半が経ってしまいました。これは、講演会のアンケートの回答で100%の方が書いて下さった感想でした。

各座席に、可愛いイラスト、写真や地図が印刷されたA5サイズのパフレットが配られていました。それは宮原さんがご講演をテーマ毎に分かり易くまとめて下さったものでした。その助けをお借りして、大変興味深いお話の内容を幾つかご紹介させていただきます。

☆出会いとご縁のクロスキャリア

(OL～山ガール～大学教員～現在)

クロスキャリアの始まりは大学入試の失敗(18歳)から。お母様が浪人を許して下さいませんでしたので、好きだった英語を語学学校で勉強し、1975年(20歳)日本旅行に就職。欧米旅行の添乗や営業で11年間勤務。その間に沢山のひとと出会い、様々な生き方を垣間見るうちに次第に大学に行かなかったことを後悔するようになる。折しも幾つかの私大で社会人入学制度が始まり、その新制度の第一号学生として明治大学に社会人入学し(31歳)地理学を専攻する。沢山の学友仲間との出会いがあった。3年の時、指導教授の影響を受けて山岳植物の生態研究(這松の研究)をテーマに、中央アルプスの山々に登り始める。1990年、研究を続ける為に就職の道を選ばず、難関を突破して東京学芸大学修士課程に進学。2年後、さらにドクターを目指して東京大学理学系研究科博士課程に進む。ロシア人やアメリカ人など海外の研究者の友人も多数できる。5年後の1997年「まっぼっくり」の研究で理学博士号を取得。充実した学生生活を終えた同年に宮城県立大学が開学し、地理学、観光学を教えられる人材を募集。これに応募して採用が決まり、大学教員となる。1998年宮城大学事業構想学部助教授として仙台に赴任。

なんと豊かなご経験でしょう。宮原さんはこのクロスキャリアによって、若い人達に「一回位の挫折でくじけてはいけない。どんな道にも素晴らしい出会いと豊かな展開があるから。と自信をもつ

と言えるようになった。」と仰います。

☆大学は仙台市内に、自宅は山形に

山形県高畠町 2002 年～ 農的生活にあこがれて

東京育ちの宮原ご夫妻は揃って農村の暮らしへの憧れが強く、東北各地を訪れるうちに高畠町が大変気に入り、ご自宅を構え 2002 年に i ターンを果たす。現在も週末は高畠町での農家暮らしを楽しむご生活。地域での役割をきちんと果たすことによって、楽しいご近所付き合いと良い人間関係を得る。見守られている安心感があるとのこと。高畠町は特別豪雪地帯で大変雪深いですが、米、果物、特にラ・フランスやブドウの特産地であり、ワインやジャムは広く知られている。酪農も盛んで日本の製乳（粉ミルク）発祥の地でもある。食の町として地元民の経営する仏レストランや、蕎麦屋、懐石料理など色々あって人気も高く、町外から多くの方が訪れる。女性の起業店も多い。高畠観光協会に「まほろば隠れ家レストラン」として登録されている。

☆宮城学院女子大学 現代ビジネス学部長として 2016 年就任

2016 年に新設された学部（1 学部 1 学科の構成）

ビジネスの基礎を身に付け、ビジネスの現場での学びや活動を実践する学科。宮城学院女子大学はこれまで教養系の大学だったが、男女共学の大学が主流になりつつある中で、敢えて女子大の強みを活かし、現代社会に活躍するビジネス・ウーマンの育成を目指す学部として誕生。

宮原ゼミ ビジネス実践研究 10 名 2017 年～

観光には人の行き来だけでなく商品開発も重要
活動の成果

- ① JTB 大学観光まちづくりコンテストで、41 大学 100 チーム参加、2 位を獲得
- ② 被災地支援のブランドで、商品開発プロジェクトに参加
ヤマカノ醸造、お茶の井ケ田
- ③ 「伊達な文化」魅力発信推進事業実行委員会との共同制作
軽くて持ち歩きやすいカラフルな観光パンフレットを作成
女子旅手ならい帳 『伊達な文化に恋をして…』
県文化財保護課、凸版印刷
- ④ お中元ギフトの商品開発プロジェクト
藤崎百貨店、蔵王フォーシーズンファクトリー

各方面から女子大生の力に期待が集まってきているそうです！是非、宮学から、仙台から、生き生きと社会で羽ばたく女性が多数育って行って欲しいと思います。



☆最後に宮原さんがパンフレットにお書き下さった「おわりに」を写させていただきます。

近年の日本では会社組織に関わらず、自分らしい働き方や仕事を求める女性も増え、特に東北では東日本大震災を契機に、被災地に移住し、そこで起業する女性も目立ちます。

地域では、観光、産業振興、教育など総合的なまちづくりの取り組みも出てきました。

日本の社会は大きく変化していますが、今後もよりいっそう女性の力を求められる場面が増えるものと思われます。ひとりでも多くの女性が社会と関わる中で、柔軟で、新しい価値を生み出していける様な、日本人の生き方を示せるようになってきたら良いと思います。

世界ではまだ女性が自分の意志で生きることが出来ない場所があります。そうした場所に思いを馳せながら、皆さんで手を携えながら良い社会を作って行きましょう。

宮原さんのご活躍は新聞やニュース等で目にする機会も多いのですが、ご講演を初めて伺わせて頂いて、大変興味深いクロスキャリアのご経験が、全て現在に生かされていると強く感じました。

つまりいても立ち止まらず新しい道に踏み出し、更にそこで成功をおさめるのは容易なことではありません。当然、誰にでもできることでもありません。

そんな博士で、登山家で、まさにスーパーウーマンのモデルの様な宮原さんは、実際にお会いすると、穏やかで明るくて本当にお優しいお人柄なのです。

これから、大学女性協会で宮原さんと一緒に活動させて頂けますことが益々楽しみになり、改めて私も『ボーっと生きてはいけない！！』と思わせて頂いた素晴らしいご講演でした。

<『仙台支部創立 70 周年記念誌』の完成>

中屋 紀子

70 周年記念誌編集委員会は現役員 10 名に赤松千鶴さんと、浦田麻弥さんを加えた 12 名で、2018 年 7 月 24 日に発足しました。役員会終了後の時間を有効に使って、6 回の編集委員会（8/30, 9/21, 10/26, 11/21, 12/12）を重ねてきました。いつも会場を提供して下さるエル・パーク仙台があつてのことでもあります。

編集作業が終わり、印刷をお願いする創文印刷から 12 月 26 日に見積書が届きました。そして、2019 年の新年早々に発注し、200 部の印刷をお願いしました。

この間、支部会員の皆さんに原稿を執筆していただき、編集委員の皆さんの総力を挙げての取り組みができたことを幸いに思います。特に、編集センスを発揮して下さい、惜しみない力を出してくださった赤松さんに改めてお礼を述べたいと思います。

<「新年のつどい」に参加して>

赤松 千鶴

大学女性協会の会費を毎年漫然と払ってきて、その一部が本部に行くということは知っていたものの、何に使われているのかはよく知りませんでした。それがはっきりとわかるのが、毎年恒例の「新年のつどい」です。今年は 1 月 12 日に、新宿の京王プラザホテルで行われました。本部主催の行事ですが、会員なら誰でも参加できるということで、下っ端会員ではありますが出かけてまいりました。

この催しのメインイベントは、国内奨学金の贈呈式です。大学女性協会の国内奨学金は 1948 年からの歴史があり、その後 1952 年にホームズ奨学金、1991 年に安井医学奨学金が設立されたそうです。金額は 10～30 万円とのことですが、経済的な理由を問われず返還の義務もないお金は、学生にとってはありがたいことでしょう。金額と奨学生の人数から、年間 200 万円程度が奨学金に充てられているのだと理解しました。

贈呈式では、奨学生の方々の研究テーマをひとつとお聞きすることができます。内容は本部発行の会報に記載されているとおりのバラエティーに富んでいて、新年のつどいに参加しなければまず耳にすることもないような、研究の世界の一端を垣間見ることができました。奨学生の方々にとっては、学会発表と違って説明用のスライドも使えず、その分野のことをほとんど知らない聴衆に研究の内容をわかりやすく説明するという課題は、良い経験になったのではないかと思います。

国内奨学金のなかには「社会福祉奨学金」というカテゴリーがあり、今年は目の見えない方、耳の聞こえない方、車椅子を使用している方の研究が選ばれていました。耳の聞こえない方には手話通訳が二人ついていました。なぜ二人必要なのでしょう。初めて知ったのですが、話しの内容を正しく伝達するために、手話通訳者は 20 分毎に交代しなければいけないのだそうです。確かに、上半身や顔の筋肉を大きく動かす手話通訳は重労働。20 分が限界というのもうなずけます。

それにしても、研究分野がこれだけ多岐にわたると、選考もさぞかし大変なことでしょう。大学と支部を通して応募することになっているので、そこで一応ふるいにかけられるわけですが、最近では支部がない県の学生がホームページを見て、直接本部に応募してくるケースが増えているそうです。また、9 月入学の学生が増えており、現状では応募や給付のスケジュールが合わないの、対応を今後考えなければいけないだろうとのことでした。選考委員の方々のご苦労はいかばかりかと思います。でも、そのおかげで優秀な学生さんを支援することができ、大学女性協会の会員として

会費を払っていて良かったと思えるひとときでした。

＜大学女性協会仙台支部新年会に参加して＞

長井 祥子

冬の街にも明るい光がふりそそぐようになった 2 月 23 日、日本料理「花はん」を会場に、大学女性協会仙台支部・2019 年新年会が開かれました。

私は、日頃より尊敬申し上げる松山寿美子先生からお声がけを頂いて会員に加えて頂きまして以来、なかなか活動に加わることが出来ず、申し訳なく思いつつ初めての参加でしたので、大変緊張しておりました。が、渋谷由美子支部長をはじめ、社会的に重要なお働きをなさって素晴らしい実績を残しておられる皆様が親しく笑い興じておられ、暖かく迎えて頂きましたので緊張がどんどんほぐれて行きました。

宮原育子先生の、七が宿町と高島町を結んだ内容の講話はとても興味深く、冒頭の「七が宿は山形の辺境で、高畠に買い物に来る」という言葉には驚きましたが、福島の桑折から峠を越えて七が宿から山形に入る道筋は、江戸時代には参勤交代の街道だったとの説明に、なるほどと納得させられたことでした。



さらに、天保年間の 1843 年、関本陣で江戸からの巡検使を饗応した際の料理の復元を企画し、宮城学院女子大食品栄養学科の学生さんの調理によって献立復元が実現したことや、蘇った料理を観光客の皆さんにも味わってほしいと思っている、などの取り組みが紹介され、地域の歴史に光をあて、地域を蘇らせるという、実践に基づいたお話を面白く拝聴いたしました。

谷地森涼子顧問からのお話は、特に東日本大震災支援として世界中の女性協会が寄せて下さった数々のご厚意や支援事業コンサート・ラストコンサートの様子に触れたご報告で、震災からの8年の年月が思い出され胸が熱くなったことでした。また今年は、仙台支部創立70周年を記念する「記念誌」が発刊されました。編集長を担われた中屋紀子会員から本誌が出来上がるまでの経緯と皆様の協力に感謝が述べられました。お一人お一人が記念誌を手になさって、支部中興の祖とも言える藤崎千代子様のご功績を偲んで思い出を語られ、歩みを振り返っておられる様子からは、仙台支部70年の歴史の重さが伝わってくるようでした。

最後に、全員から近況や会との関わりなど思い思いのお言葉が語られ、和やかな中に活気溢れる楽しい新年会でございました。ご準備の労をお取り下さいました皆様に感謝申し上げます。

< 渋谷由美子支部長 表彰 >



2018年11月9日 仙台国際センターにて、宮城県の「2018年文化の日表彰」式があり、本支部支部長の渋谷由美子さんが教育文化功労賞を受賞されました。お祝いを申し上げます。



* 今後の予定 *

平成31年度 総会

日時：4月17日（水） 11：00～

場所：日立システムズホール・会議室3

仙台支部便り「けやき」No. 17

2019年4月8日 発行

発行 （一社）大学女性協会仙台支部

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘1-10-11 渋谷 由美子 方